

日本での留学生活

慶北大学校

チェスビン

韓国の大学で日本語日本文学科に進学して以来、これまで日本文学に関心を持ち、継続して勉強してきました。今回の留学生活は、私の文学の勉強と研究生生活に大きな発展と貴重な経験をもたらしてくれた時間だったと思います。大学院生として交換留学に来たため、より多くの努力と成果が必要なのではないかという思いから、日本に来た当初は緊張し、不安も大きかったです。しかし、お茶大の多くの先生方や友人の支えのおかげで、徐々に生活に慣れ、自分の勉強にも集中できるようになりました。



私は今回の留学生活を通して、修士課程で主に研究したい分野について、より深い研究を進めることができました。特に指導教員である谷口先生の授業がとても勉強になりました。授業ではさまざまな資料を読み、比較する練習ができました。この過程で国会図書館を訪れて雑誌や新聞資料を読んでみる時もありました。母語ではない言語で書かれた文章を読み、考えること、そして文章を自ら構成することは決して容易ではありませんでした。しかし、共に授業を受けるチューターの助けと谷口先生のご指導により、授業についていくことができ、その結果、たくさんのことが学べました。

お茶大での経験が私にとって大きな助けになった分、今回の留学生活には私を支えてくださった感謝すべき方々が多くいらっしゃいます。まず、市原先生に心より感謝申し上げます。先生のおかげで安心して留学生活を送ることができました。私が体調を崩した時、直接訪ねてくださり私の様子を見てくださったことは、本当に大きな心の支えとなりました。そして、谷口先生に感謝申し上げます。私の研究に関心を持ってくださり、さまざまな助言をしてくださったことはとても勉強になりました。先生の授業を通して、より一層成長することができました。最後に、私のチューターである渥美さんにも感謝の気持ちを伝えたいです。一緒に話す時はいつ

も明るく反応してくれて、よく話を聞いてくれたので、その時間はいつも楽しかったです。寂しく感じることもあった留学生活でしたが、渥美さんに会う時間は良い思い出となりました。多くの助けをいただき、おかげさまで無事に修了までたどり着くことができました。